

秋空の幸区民祭

自衛隊神奈川地方協力本部川崎地区隊（川崎出張所長 宮城英明 1等陸尉、溝の口募集案内所長 渡邊裕太 1等陸尉）は、10月19日（土）川崎市の幸区役所一帯で実施された「幸区民祭」に自衛隊ブースを出展した。

当日は秋とは思えないほどの真夏日で、ブースに展示した「南極の氷」は、「冷たくて気持ちいい」と人気だった。「氷の中に数万年前の空気が閉じ込められています。溶けだす音を聞いてください」と広報官が説明すると、来場者は驚きと感動の表情で、氷のパチパチとする音に耳を澄ませていた。「南極の氷」体験により、南極観測隊に協力する海上自衛隊砕氷艦「しらせ」のアプリールもできた。

制服の試着コーナーも列が切れないほどの人気で、来場者は子供たちと制服を着て高機動車に乗り写真撮影をして、「めっさに乗れないから、貴重な体験でした」と笑顔で話していた。神奈川地本のキャラクター「はまにゃん」が登場すると、ひととき会場を盛り上げ、「かわいー！」「海上自衛隊なの？」とたくさんさんの声をかけられ、記念撮影にも長蛇の列ができていた。

川崎地区隊は「幸区民祭など地域のイベントを通して住民に自衛隊を身近に感じていただき、自衛隊の魅力を発信していきたい」としている。



なかはら “ゆめ” 区民祭で自衛隊をPR

自衛隊神奈川地方協力本部川崎地区隊（川崎出張所長 宮城英明 1等陸尉、溝の口募集案内所長 渡邊裕太 1等陸尉）は、10月20日（日）、「第46回なかはらゆめ区民祭」に参加し自衛隊ブースを出展した。川崎市中原区の等々力緑地公園一帯で実施された区民祭は、様々なステージや展示などのイベントが行われたほか、多数の模擬店の出店もあり、多くの来場者で賑わった。

会場の「展示・相談・体験ひろば」での高機動車や偵察バイクの車両展示は、特に大きな存在感を示し、来場者は「制服・迷彩服試着コーナー」で制服などに着替えて偵察バイクに乗り、写真撮影を楽しんでいた。

ブース内では、展示された「南極の氷」を触りながら「南極に行きたい」と話す女の子に、海上自衛隊砕氷艦「しらせ」の紹介をする目と輝かせていた。また災害派遣の写真パネル展示では、「胸のところがまで泥水に浸かって、大変な思いをして人命救助や不明者捜索をしていたんですね」との言葉をいただき、身が引きしまる思いだった。

川崎地区隊は、「中原区民祭を通して、自衛隊の有用性を知っていただき、地域の皆さまと信頼関係をより深めていきたい」としている。

